

2014年6月30日

TeikyoSat-3 銘板にお名前を記載することに
ご賛同いただいた皆さま：

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年8月、帝京大学の小型人工衛星「TeikyoSat-3」に搭載する銘板へのお名前の記載並びに醸金のお願いをいたしましたところ、ご賛同いただきありがとうございます。記載いたしました団体、企業、個人のお名前は約700にものぼりました。TeikyoSat-3は栃木県発（初）で栃木県産の人工衛星ですので、その銘板にお名前が記載されたことにより、栃木県民の皆さまに宇宙を身近に感じていただけたら、私どもとしても大きな喜びです。御参考までに、H-IIA ロケット23号機に搭載されたTeikyoSat-3、銘板の取り付け状態、TeikyoSat-3 飛行イメージおよびJR 宇都宮駅構内の帝京大学電飾広告の写真を末尾に添付いたしました。銘板への詳細な記載状況はTeikyoSat-3のホームページ

http://club.uccl.teikyo-u.ac.jp/~space_system_society

をご覧ください。

TeikyoSat-3 は、NASA(アメリカ航空宇宙局)の GPM (全球降水観測) 衛星の相乗り副衛星として、去る2月28日(金)午前3時37分にMHI(三菱重工業株式会社)のH-IIA ロケット23号機でJAXA(宇宙航空研究開発機構)種子島宇宙センターから打ち上げられ、高度400km、傾斜角65度の円軌道に投入されました。現在高度約350kmの地球低軌道上を周回しております。打ち上げ後既に4ヶ月が経過し、1日に地球を16回周回しますので、皆さまのお名前とともに既に地球を2,000回近く回っていることとなります。その間、衛星内のハウスキーピングデータ(温度、圧力、湿度等)はテレメトリデータとして刻々と地上局に送信してきており、5月半ばころまでにはミッションモジュール容器内の温度は33~38℃、圧力は打上げ時の1013hPaから750hPa程度まで低下し、湿度は約59%で推移していることがわかっておりました。ただ、地上局からのコマンド(指令)が通らず、ミッションが開始できずにおりますので、その原因の究明に努めているところです。また、5月中旬以降、全日照軌道に入ったためか、衛星内温度が上昇したため、テレメトリデータも受信できずにおりますが、これも回復を希って運用を続けているところです。

TeikyoSat-3の本来のミッション期間は約1か月でしたので、その間にミッションが終了していれば、ミッションモジュール内の圧力は900hPa程度までの低下で収まっていて、粘菌の生育・観察には十分であったこともわかり、設計の確証を得るとともに、衛星データを解析することにより、今後の衛星開発に対して多くの示唆を得ることができました。

TeikyoSat-3 は本年 8 月下旬には地球大気圏に突入して消滅すると予想されていますが、それまでは地球周りを周回し続けますので、その間データの蓄積とミッション開始の努力を今まで通り続けるつもりでおります。引き続き応援いただけますようお願い申し上げます。

なお、TeikyoSat-3 については、9 月 7 日（日）の帝京大学宇都宮キャンパスのオープンキャンパス「エンジョイカガク」（<http://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/oc/>、問い合わせ電話 028-627-7123）、および 7 月 19 日（土）～ 9 月 23 日（火・祝）の千葉県幕張メッセ国際展示場 10・11 ホールでの「宇宙博 2014」（<http://www.space-expo2014.jp>、問い合わせ電話 03-5777-8600）において展示いたしますので、併せてご覧いただけましたら幸いです。

最後になりますが、皆さまのますますのご発展を祈念いたします。

敬具

〒320-8551

栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学理工学部宇宙システム研究会

顧問 久保田 弘敏

河村 政昭

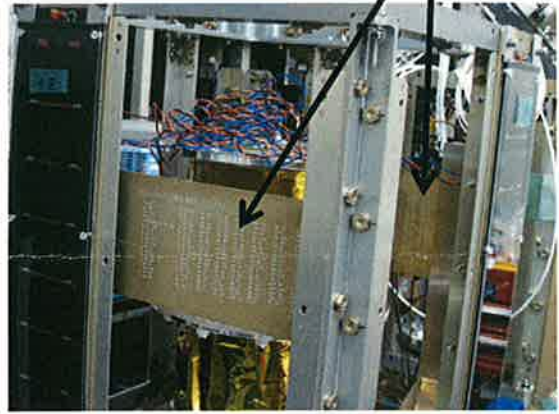
電話 028-627-7269（久保田）

028-627-7214（河村）

E-mail kubota@ase.teikyo-u.ac.jp（久保田）

kawamura@ase.teikyo-u.ac.jp（河村）

銘板 (衛星内部)



H-IIA ロケット 23 号機に搭載された TeikyoSat-3

TeikyoSat-3 搭載銘板 (組込済み)



TeikyoSat-3 飛行イメージ



JR 宇都宮駅構内の帝京大学電飾広告